

今週の執筆者
「Jの3冊は拓殖
大総長の渡辺利夫さ
ん。著書に『アジアを
救った近代日本史
講義』(PHP新書)。辻原登さんは作
家▽中村桂子さんはJT生命誌研究館
長▽藻谷浩介さんは株式会社日本総合研
究所主席研究員▽持田叙子さんは日本近
代文学研究者▽川本三郎さんは評論家。
『昨日読んだ文庫』の絵は舟橋全二さん。



和田 譲

アジア研究者である私が松本さんと懇に親しくなったのには、松本さんが『近代アジア精神史の試み』を上梓し、私がこれをアジア調査会のアジア・太平洋賞の大賞に推薦、講評させてもらつたという縁縁がある。私の青春時代、アジアを語るキーワードは“停滞”であった。私はそうではない、“成長”だと主張して実証研究に明け暮れていた。その私を松本さんは思説である。

アジア研究者である私が松本さんと懇に親しくなったのには、松本さんが『近代アジア精神史の試み』を上梓し、私がこれをアジア調査会のアジア・太平洋賞の大賞に推薦、講評させてもらつたという縁縁がある。私の青春時代、アジアを語るキーワードは“停滞”であった。私はそうではない、“成長”だと主張して実証研究に明け暮れていた。その私を松本さんは思説研究の面で後押ししてくれたようを感じた。

本書では、アジアの自己認識が西洋への抵抗にあったこと、しかしアジアの抵抗は西洋近代化の精神を自らのものとするより他に実現の方法はなかつたこと、したがつて例えは日本の近代化はアジアの自己否定となりざるをえなかつたこと、そして日本の近代化が西欧近代を超えてすることによりアジア解放の契機となつたこと、などが論じられた。松本さんのこの著作に私は目を開かされ、熱いものさえ感じた。

この3冊

渡辺 利夫・選

松本 健一

①日本の近代1 開国・維新
1853~1871 (松本健一著/中公文庫/1440円)

②白旗伝説 (松本健一著/講談社学芸文庫/品切れ)

③近代アジア精神史の試み
(松本健一著/岩波現代文庫/1080円)

敬愛する友、近現代史の鮮やかな語り部を失つてしまつた。松本健一さんといえは『評伝北一輝』を33年かけて書きあげた評論家として知られる。この著作で松本さんは、北一輝という人物像を徹底的に彫琢することにより時代と思想を語るという表現形式を完成させた。思想史と文学との結合である。

松本さんは自らを評論家と称していたが、一次資料を丹念に読み込む研究者でもあった。中央公論新社の『日本の近代』シリーズの第一巻『開国・維新』が鉢ぐたる近代史家をさしおき松本さんによって執筆されたというのが、何よりもの証拠であろう。主人公の一人が佐久間象山である。象山はペリー艦隊を遥望、その砲弾が江戸城内を射程距離に收めていることを見抜き、この驚嘆が彼をして「夷の術を以て夷を制す」という戦略思想家たらしめたと記している。伊豆平島戸田村の船大工上田虎吉を拔擢、長崎海軍伝習所やオランダに留学させ、この男を明治海軍の代表的な建設技術者として仕立てたのも象山の戦略的思想の帰結だという。こまめな踏査が生き生きと記述されて本書が紡がれる。

ペリー来航時、日米開戦となつて日本が降伏することになればこれを掲げよといつてペリーから手渡されたものが、日本人が初めてその意味を知らされる「白旗」の「國際法」的な意味であった、という。このエピソードを主題にした松本さんによる日本の近代戦争史が『白旗伝説』である。